

「ESD 推進指導者研修会～持続可能な社会の担い手を育てるために～」 をリモート形式にて実施しました！

三井住友信託銀行では2012年より、環境専門のインターネット放送局グリーンTVジャパン、SDGs TVを運営する株式会社TREEと協働し、次世代を担う子供たちに向けたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトに取り組んでいます。

第15回目となるESDプロジェクトは、愛知県内の教職員の皆さまを対象に、ESDとSDGsをテーマに持続可能な社会の担い手を育てるための学習とは何かについて考える「ESD 推進指導者研修会」を開講しました。今回のESDプロジェクトは、新型コロナウイルス感染拡大を考慮し打ち合わせから研修会まで完全なリモート形式で行いました。

SDGs とは

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」をスローガンに、発展途上国から先進国まで一体となって積極的な取り組みを進めています。



SDGs を取り入れた授業の実践について学ぶ

2020年8月27日（木）、愛知県下の小中高の教職員約40人を対象にしたESDプロジェクトを実施しました。これは、愛知県教育委員会が3年前より開始した持続可能な社会の担い手を育てるための研修会に協力したものです。当日は、県内の各学校にいる参加者と首都圏にいる講師をオンラインでつなぎ、ESDとSDGsを取り入れた授業の実践について、リモート形式の講義を受講してもらいました。

教育活動へどうSDGsを取り入れていくか

研修会前半は、鎌倉のSDGs.TV オフィスから松尾沙織氏が「SDGsを知ろう」をテーマに講義をしました。昨今の気候変動による災害や生物多様性の損失等、身近な事例を挙げながら「2020～2030年は行動の10年であること」などを学びました。限られた時間ではありましたが、動画視聴、個人ワークやグループワークも行い、自分が考えた意見を共有したり、探求の時間にどのようにSDGsを反映させたらよいか等、活発なディスカッションが行われました。

研修会後半は、横浜市立日枝小学校から住田昌治校長が「教育活動へのSDGsの取り入れ方」をテーマに講義をしました。持続可能な社会の担い手となるために子供たちをどうSDGsにたどり着かせるのか、正解がない問いに対して共に考え学ぶにはどうしたらよいのか等、住田校長が実践されている具体的な取り組み事例とともに、大変興味深いお話をいただきました。

今回の研修会は、完全リモートで「講義→ディスカッション→共有→まとめ」を実施する本プロジェクト初の試みでしたが、参加者の教職員の皆さまには、ESDやSDGsをどのように教育現場に浸透させていくか、また新しい学習の形としてリモート形式の講義を体感してもらうことができました。

2020年度より、小学校から年次進行で実施される「学習指導要領」では、生徒たちはより広い視野をもって物事を主体的に学ぶ姿勢が求められることになります。このESDプロジェクトを通じて、次世代を担う子供たちがSDGsを身近に感じ、持続可能な社会とは何かについて考え、具体的な取り組みを始めてもらうきっかけになれば幸いです。

三井住友信託銀行では今後も、SDGsの推進、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進に努めてまいります。

